

温篤新聞

通巻143号



『時の流れに身をまかせ?!』

時の過ぎるのは早いもので、今年もまもなく半年が過ぎようとしています。昨年からはコロナの影響もあって、より早く感じていた方も多いいのではないのでしょうか。

『時の記念日』として制定されました。

時というのは一定のはずです。その時というのは、皆様にとつて過去があり現在を経て未来に続くと思つておられると思います。しかし、東洋思想において、未来というものは神や仏とも呼ばれる全能の理、大いなる意思によつて既に決まっています、それが私たちの元間に關心を持ち、規律正しく効きます。

医食同源 ハチミツ

消化吸収が早く、すぐにエネルギー源として働くため、病後回復に良いとされます。身体に必要な潤いを与えることで、空咳を鎮め、整腸作用があるので便秘・下痢の両方にお勧めです。また粘膜や皮膚を強化する働きもあり、ヤケドや口内炎、胃・十二指腸潰瘍の治りをよくし、痛みの緩和にも繋がります。

ただ、ハチミツはボツリヌス菌に汚染されていることがあるので、抵抗力の弱い乳幼児には与えないよう注意が必要です。



今月のツボ 梁丘(りょうきゅう)

「梁」とは家屋を支えている横木、「丘」はおかを意味しています。膝をグツと伸ばすと腸脛靭帯が盛り上がりますが、この靭帯は直立した時に身体を支える重要な結合組織の靭帯です。ツボの名前は、この腸脛靭帯の盛り上がりキワに当たるため付けられました。



場所は、膝蓋骨外側から指幅2本分ほど上方で、押すと細いスジが感じられる所に取ります。

太ももや膝の痛みに用いられる他、半身不随、リウマチ、坐骨神経痛、胃腸の症状、下痢の治療などにも用いられます。

東洋思想において、天が定めた未来を変える事も出来ないし、逃れる事も出来ません。しかし、未来に対して備える事が出来るとしたならば結果を変えることは出来るかもしれません。

もしこれから雨が降ると分かっていたら、傘を持って出かければ良いし、もしこの先健康を害すを分かっていたら、事前にケアをしておけば避けられるかもしれません。

西洋の占いは、良い未来を導くために今何をすれば良いかを問うものに対し、東洋の占いは、この先自身の身に降りかかる出来事を知る事で、それに對し備えるためのものなのです。

私も患者さんを診ていて、もし今年健康を害す年と分かっていたならば「こういう生活に心がけて下さい」とか「そうならない為にちゃんと治療に通つて下さい」とアドバイスできるのにと心苦しさを感じた事もあります。

鍼灸治療以外でもお役に立てればと本は購入したものなかなか実行に移せず、勉強を怠る未来も決まっていたのかと神や仏に問いたくなりましたが、それもまた神や仏は見透かしていたのか、有難い患者さんとの出会いをもたしてくれました。

占い館に所属し鑑定をされていた方が、ちょうど当院に通われるようになったタイミングで、独立しお仕事事を始めました。もし私が中途半端に勉強していたら、この方と出会った良い運命を得られる事を妨げていたかもしれません。

もし未来に備えたいと思われたり興味を湧いた方は「つくば 遊木深月」で検索してみてください。

もしかしたら既に決まっている素敵な未来に会えるかもしれませんよ。



二十四節気と七十二候

「くらしのこよみ」より

日本には美しい四季があります。春、夏、秋、冬…折々の豊かな表情は日々の生活に彩りを与えます。日本人は昔から季節感を大切にして暮らしの中に取り入れてきました。

その抛り所となったのが、『二十四節気』です。地球から見た太陽の通り道「黄道」三六〇度を十五度ずつ二十四に区切り、その一つ一つに節気を配して四季の移り変わりを表したものです。一つの節気は十五日程度になります。

また二十四節気の一つ一つをさらに三区分し、季節の風物を言葉で表現したものが『七十二候』です。こちらはだいたい五日単位で、その季節の特徴的な自然現象を意味する名前が付けられています。

二十四節気

夏至

(6月21日)

冬至とは逆に、1年でいちばん昼が長く、夜が短くなる時期です。梅雨の盛りでもありますが、気温の面ではまだ真夏という感じはしません。日照時間はこれから冬に向かって少しずつ短くなっていくのです。

『生きる力の源』

「老神父はゆっくり私に近づき、私の手をとって、『あなたは力いっぱいやってきたでしょう。しかし、その力はまた、おやじの力でもあることを忘れないで下さい』と言った。その日、父の墓の前に立って、私は初めて涙を流した」(グスタフ・フオス著『日本の父へ』より)

私たちは、普段、親に心を向ける事をなかなか出来ないものです。しかし、親の方は、子供の無事と幸せを祈り続けています。そうした親の思いや生き方を知る事ではないでしょうか。6月の第3日曜日は「父の日」です。この日を契機に、親の祈りに思いを馳せ、自分の感謝の気持ちを伝えてはいかがでしょうか。



七十二候 (7月1日～6日頃)

半夏生(はんげししょうず)

夏至から数えて11日目を半夏生といいます。語源はカラスビシャク(半夏)が咲く頃だからとも、半夏生の名をもつ草の葉が白く染まる頃だからとも言われます。

農作業の大事な節目で、かつて田植えは半夏生までに済ませるものでした。酒肉を禁じ、野菜を摂らないなど、物忌みも多かったようです。

この頃に降る雨を「半夏雨」といい、大雨になるとされています。

旬のくだもの

荔枝(ライチ)

中国南部原産の果物で、楊貴妃のために玄宗皇帝が華南から長安の都まで運ばせたという有名な逸話があります。

鱗状の硬い皮を剥くと中から半透明で乳白色の果肉が現れます。みずみずしく、芳香があり、他のどのフルーツとも違う不思議な食感があります。新鮮なものは表皮が鮮やかな赤い色をしています。時間がたつにつれて色褪せて褐色になります。

日本には主に台湾から輸入されており、まだ量は少ないですが、最近になって沖縄や鹿児島産が出回り始めました。



6月

○印はお休みです

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|----|----|----|----|----|----|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑥ | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| ⑬ | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| ⑳ | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| ㉗ | 28 | 29 | 30 | | | |

執筆余話

コロナの陽性患者数も発生後から増加傾向にあり、鬼ごつこのようにどんどん追ってきて逃げ切る事は難しく、いつの日か一度は捕まらなければならぬのかと思っていました。しかし、身の回りのコロナ陽性者を耳にするより先に、ワクチン接種をされた方の声が聞こえてくるようになってきました。

ワクチン接種につきましては賛否両論あるようなので、どちらが良いとは言えませんが、どちらにしても鬼に捕まる前に個人の免疫を獲得するか世間が自然免疫を獲得してくれる事で、この戦いにも終焉が見えてくるのではないかと思います。

この制限された生活もうしばらくの辛抱かもしれません。もう少しばらばらく？マスク、消毒等お手数をおかけ致しますが、感染拡大防止にご協力の程宜しくお願い致します。

